

第Ⅰ部 現場を科学するために

1. 社会調査の全体像

皆様こんばんは、國學院大學の町田樹です。

ここからは、「現場を科学するために」と題して、今回実施いたしました社会調査の成果の一部を、お話ししていきたいと思います。

後ほど詳しくご説明しますが、今回私たちは、【図1】に示しておりますように、「シラバス調査」と、「統計・記述調査」という二つの社会調査を実施いたしました。このうち、「シラバス調査」については西田桐子先生が、——「統計・記述調査」については私町田がお話しして参ります。

だいたい第Ⅰ部全体で40分ほどの発表になるかと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

社会調査とは何か

さて、早速、今回実施した調査について、お話ししていきたいところではございますが、一般の方々も聴講されておられますし、社会調査に馴染みがない方々もいらっしゃることだと思いますので、まずは、私から社会調査という研究手法について、簡単に紹介したいと思います。

そもそも、社会調査とは、「社会および人々の意識や行動などの実態を、一次データの収集と分析によって明らかにする方法」です。この「一次データの収集・分析」が社会調査の強みの一つと言えるのですが、一次データは、調査のターゲットとなる社会や人々から直接的に得た情報のことを指します。つまり、文献に記載されていることや、人から聞いた話、などの二次データではなく、調査者が自らその社会の中に入って情報を収集したり、あるいはその社会を構成する人々にアンケートやインタビューを行って情報を入手し、その一次データを様々な方法で分析する、というのが社会調査の特徴になります。

しかし、「社会調査」と一口に言っても、そのスタイルは実に多様です。とても大雑把な説明になってしまいますが、社会調査には大きく分けて二つのスタイルがあります。

一つは、「質的調査」というものです。これはインタビューや参与調査、フィールドワークによってデータを集めることを言います。質的調査によって、当事者から証言を得たり、実地で写真や映像を撮影したりして、いろいろな情報・データを取得するわけですが、こうしたデータは全て質的データと呼ばれます。

そして、もう一つは、「量的調査」です。これは、調査対象者に、主として数字で回答する形式のアンケートに答えてもらって、そのデータを統計分析にかける、というものです。

今回私たちは、こうした質的調査と量的調査の両方を駆使して、社会調査を行いました。調査の目的は、「比較文学比較文化の大学教育をめぐる現状や実態」を把握することです。したがって、調査対象者は自ずと、「日本の大学において開講されている、比較文学比較文化関連の授業と、その授業に携わっている研究・教育者」ということになります。

本研究において実施した二つの社会調査について

では、具体的にどのような調査を行ったのかをお示しします。先ほどお伝えしたように、今回は「シラバス調査」と「統計・記述調査」という二つの調査を実施しました（【図1】参照）。

第一のシラバス調査は、国内大学において開講されている、「比較文学関連科目」のシラバスを、可能な限り全て収集して分析する、というものです。この調査によって、シラバスそのものはもちろんのこと、その授業を担当されている教員についての種々様々な情報も入手することが可能になります。

そして、第二の「統計・記述調査」では、国内大学において「比較文学関連科目」を担当している教員の中から調査対象者を選び、アンケート調査を実施しました。

【図1】比較文学比較文化教育に関する社会調査の全体像

シラバス調査

【趣旨】

国内大学において開講されている「比較文学比較文化関連科目」のシラバスを可能な限り悉皆収集し分析する。

【収集データ】

- シラバス（授業の概要）
⇒ 質的データ
- 科目担当教員や授業に関する情報
⇒ 量的データ

統計・記述調査（質問紙調査）

【趣旨】

国内大学において「比較文学比較文化関連科目」を担当している教員の中から調査対象者を選び、質問紙調査を実施する。

【収集データ】

- 教員・科目（授業）に関する…
- 属性情報 ⇒ 量的データ
- 授業に関する考え方 ⇒ 質的データ

これによって、比較文学の授業を担う研究・教育者の属性にまつわる量的データや、その方々の比較文学教育に関するお考えを深く探ることができます。

ここまで的内容をまとめますと、私たちが実施した調査の全体像は、【図2】のようになります。

はじめに、ステップ1の「シラバス調査」によって、国内の比較文学教育界全体がどのような状況になっているのかを把握しました。つまり、今回の調査で明らかにしたい比較文学教育界という社会の全体像を明確にするわけです。この全体像を専門用語で、「母集団」と言います。

その上で、ステップ2の「統計・記述調査」のフェーズに移ります。まず、赤で示した母集団を構成する人たち全員にアンケートを配ることは不可能ですから、「割り当て抽出法」と呼ばれる手法を駆使して、母集団の縮図となるように調査対象者のグループを作りました。この緑で示したグループを「調査母集団」と言いますが、こうして選ばれた調査対象者に対して、教育実態をさらに深く聞き出すためのアンケート調査を実施するわけです。当然、この緑のグループは、赤のグループである母集団の縮図になっていますから、この緑のグループに対する調査で明らかになったことは、赤の母集団にもそのまま当てはめることができます。ステップ2の「統計・記述調査」では、こうした手続きを踏んで、比較文学教育界全体の実態を明らかにしようと試みました。

【図2】社会調査のデザイン

